

ここに

ピアノ技術のすべてが、
ピアノの限りない可能性がある。

2013年6月

(有)ピアノリソースセンター

世界同時発売。話題の技術書！

自ら演奏家でもあるピアノ技術者

マリオ・イーグレック 著

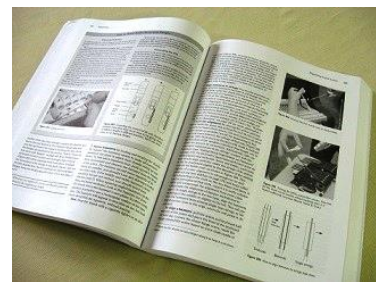
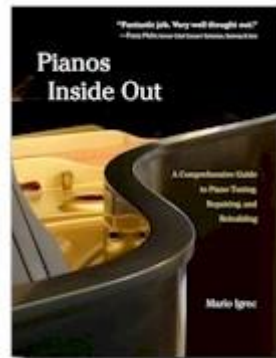
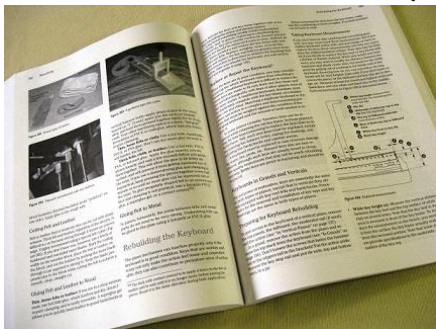
Pianos Inside Out

ピアノズ インサイドアウト

大部：560ページ

5-18.24

761点のイラスト／写真！



マリオのこの本は
ピアノ技術者たちの
新しいスタンダード、教則本に
なると思います。

—— ユルゲン・ゲーリング
「Voice of the Piano」プロデューサー

Stephen Brady 氏

【コンサートテクニシャン、
PTG(北米ピアノ技術者協会)
ジャーナル編集者、「Under
the Lid」その他・著者】

推薦の言葉を2枚目で
ご一読ください！

素晴らしい仕事をしてくれました。
本当によく書けていて、よく考察しています。
この本は皆の大きな助けになるでしょう。

—— フランツ・モア
スタインウェイ&サンズ
前・チーフコンサート技術者

著者：Mario Igréc 紹介

【コンサートレベルのピアニスト】

クロアチアの首都、歴史的な街であるザグレブに生まれる。ザグレブ音楽大学で作曲とピアノ演奏を学ぶ。学位取得後更に Stony Brook 大学においてピアノ演奏で修士号を取得、1982年にはイタリア・モンツァでの“Rina Sala Gallo”国際コンクールで特別賞を受賞。1985年にニューヨーク・オールドフィールドの Sunwood ピアノコンクールで優勝した。

【卓越したピアノ技術者】

幼少時よりピアノ技術に興味を持ち、演奏活動の傍ら、ピアノ技術書を読み調律師達と共に学ぶ。ベーゼンドルファー工場にて非公式の訓練を受け、その後アシスタント技術者を経てアメリカ・ルイジアナ州立大学の専任ピアノ技術者となる。当大学ではピアノデザイン、構造、調律理論、音律を教える。また、大学の古楽器を含む120台以上のピアノメンテナンス、修復作業をすると共にユニオンシアター他にて著名ピアニストのコンサート調律を行なう。

【マイクロソフトの MVP (認定最高技術者)】

1990年代に情報技術方面の才能を発揮、Adobe FrameMaker 及びマイクロソフトより認定を受け IT 技術について著作活動及びソフトウェア開発チームトップとして活躍した。この時期にも暇をみてはピアノ修復を行い、特に音色とタッチについての研究を深めた。

【現在】

ピアノ技術、その指導講義、古典楽器の研究を進めると共に演奏活動も継続している。



スティーブン・ブラディ氏 推薦文

(コンサートテクニシャン、PTG ジャーナル編集者、「Under the Lid」その他・著者)

1972年に私がピアノ技術者としての訓練を受け始めた時、ピアノ技術書籍は多くはありませんでした。

古くなっていたり、すでに絶版となっていました。John Travisの2冊、「張弦ガイドブック」と「調律しましょう」、及びW. Dean Howellの「プロのピアノ調律」はまだ出版されていて役に立ちました。ピアノ調律のバイブルとして知られる、William Braid Whiteの「ピアノ調律とその芸術」はありましたが、部分的には古いものでした。

当時と比べると現在書籍は非常に多く刊行されています。1972年、PTGは設立されてまだ15年でしたが、その後40年間にわたるジャーナルの記事だけでもかなりのものが我々の本棚に追加されました。Floyd Stevens著・「ピアノ調律、修理、修復」は1972年に発行、Arthur Reblitzの「ピアノサービス、調律、修復」の初版は1976年です。これらの書籍はピアノ技術についての包括的な教本とみなされています。

私達の分野のものであるなら、新しい著書の発行はどんなものも歓迎に値します。最近6年間だけでも、調律に関する高い技術的なすばらしい2冊の論文が刊行されました。Dan Levitanの「ピアノ調律の技術」と、Brian Capletonの「ピアノ調律の理論と実際」です。またRick Baldassinの印象深い改訂再版「On Pitch」などもあります。同じ過去6年間にはCapletonの「ピアノアクション整調」、André Oorebeekの「The Voice of the Piano」、そして私の著書「Under the Lid-コンサートピアノテクニシャンの技とアート」も刊行されました。

このパルテノン（神殿）に、マリオ・イーグレックの「Pianos Inside Out」がやってきました。Reblitzの第二版が1993年に著されて以来、ピアノ技術・包括的ガイドへの最初のアプローチだと思います。

私は次のように言いたいと思います。“**Pianos Inside Out はこれまで著されたピアノ技術書の中でも最も意欲的で、おそらくすべての完璧な網羅に成功した著作である**”と。この本は、761点の図面や写真が入り総計560ページある重厚な本です。(3.3ポンド=約1.5kg)しかし特筆すべきは、**広範囲な分野をカバーしているだけでなく、このような広い範囲を取り扱う事にありがちな薄っぺらさがなく、深さを極めている点です。**

以下、私Stephen Bradyから、各章を簡単に紹介してみます。

第一章：ピアノの発達と歴史と現在の市場の様子

第二章：ピアノのデザインと構造についての詳細

第三章：正しいピアノメンテナンス方法についての解説。ピアノ技術者、所有者にとって有益な情報が述べられています

第四章：調律の章。理論的な解説を施していますが、インハーモニシティやピアノ調律を学ぶ上の実践的な9つのレッスンの内容にまでも。この本は通信教育課程や調律レッスンガイドではありません。しかしこの章は調律学校や徒弟制度でピアノ技術を学ぶ人々には参考資料として役立つでしょう。この章の最後はピッチ上げと電子調律機器(ETD)の紹介です。現在利用可能なETDの、最新情報です。

第五章：アクション調整。ピアノ内部で発見される虫/動物などが媒介する病気や有害な化学製品から、お客様大切なピアノのみならず調律師自身をも守る話からこの章は始まっています。

様々なタイプのピアノアクションの外し方・作業方法、アクション内の摩擦やその対処方法、また潤滑剤の表を示し、どの潤滑剤をどこに用いるかという説明もあります。この章における整調の実際の方法は本当に綿密で詳細です。タッチウェイト、アクションの幾何学的考察など。

第六章～第八章：整音、修理。どちらも詳細に亘っておりすばらしいものです。ピアノ移動の情報もあります！

第九章：タッチ、アクションの幾何学的考察、演奏関連は、私がこれまでに知り得た限りにおいて、非常に詳細で綿密です。不満足なタッチについて多くの実践的な解説を行なっています。ウィッペンとスプリング、Scott Jonesのタッチレール、いろいろな方法でアクションの力比率を変えること、キャプスタンの位置、また、バランスポイントなど。本物の博識家と言えるイーグレックは、ピアノ技術者であるだけでなく、高いレベルのピアニストでもあります。そのため、ピアニストがアクションへ望む必要をも彼は理解できるのです。

第十章：修復についての164ページ。これだけでも一冊の本になるほどです。これは私の知る限りでも、ピアノ修復作業を全体的に細かく解説したものだと思います。響板交換を除き、その他ほとんどの修復手順を詳細に解説しています。

先に述べたように、幸いなことにピアノ技術の書籍は現在豊かに備えられています。我々に残された事はそれらを利用する事です。Pianos Inside Outは刊行されました。私のアドバイスはシンプルです。この本を購入し使ってください。本当に良かった、と思うでしょう。

Stephen Brady